

(特非) 日本国際湿地保全連合

干潟環境教育プログラムの 開発と有明海における 干潟ネットワークの構築

一般助成

1年目

知識の提供・
普及啓発



地域の人と一緒に干潟市民調査を実施

指導者育成のための講義・
調査等へ参加した延べ人数

30人

環境教育プログラムに
参加した子どもの人数

106人

活動の全体目標に
対する達成度

30%

課題

干潟に生息しているカニや貝などの底生生物（ベントス）について学習する機会が少なく、干潟の価値（水質浄化機能、水産資源など）が認識されていない。

活動内容

2012年にラムサール条約に登録された荒尾干潟を活動地として、干潟の底生生物（ベントス）を題材とした環境教育プログラムの開発に向けた活動を行った。1年目は活動地の状況を把握するために、①専門家による調査、②地域の人と共に干潟市民調査を実施した。

また、干潟に初めて来た子どもたちが楽しみながら、干潟やベントスについて学習できるプログラム（試行版）を考案し、実施した。



子ども達に生物の見分け方を指導する様子

今後の課題

干潟環境教育プログラムを地域で継続してもらうために、小学校等の教育機関への協力・参加依頼が重要となる。また、プログラムの実施を通して指導者の育成とプログラム内容のブラッシュアップを行う必要がある。

成果と工夫した ポイント



成果

環境教育プログラム（試行）を1回実施した。また、地域の指導者育成のために、研修会（講義・調査）を1回実施した。有明海の干潟のネットワーク構築のための情報共有、活動交流が地元の人を中心に始まった。

工夫

科学的情報に基づいた環境教育プログラムをつくるために、ベントス等の専門家の協力を得て調査を実施した。